

庄内協同ファームだより

No.111 2006年5月号



農事組合法人
庄内協同ファーム

発行/

〒999-7631 山形県鶴岡市八色木字西野338

tel.0235-78-2120 fax.0235-78-2140

http://www.shonaifarm.com



消費者家族との田植え交流会

いよいよ春が来ました。

春作業で雪の中で錆びついた身体の節々が痛みます。これからあと何回米作りができるのか、と考えることが多くなりました。だからこそ、一年年を大事に取り組んでいかなければと思います。

とある生協のカタログの表紙にあった言葉が印象的でした。『このままでは日本の水田が無くなる。今こそ契約米を『消費者の危機感がストレートに表れていました。や」と少しはご理解いただけたかと嬉しくなりました。契約米が増えることは、私たちにとって安心して生産できることにつながります。お米は上限関税の撤廃により価

格の下落が必至です。生産者の栽培努力をそれ相応の価格で評価してくださればなお良いのですが…。

この他、米をめぐる大きな問題として、遣伝子組み換え稲の野外実験があります。花粉症緩和稲(農業生物資源研等)、北陸研究センターではいもち・白葉枯れ病耐性稲(差し止め裁判中)、東北大鳴子農場では鉄欠乏耐性稲(アルカリ土壌で育つ稲)が実験されています。

花粉による他品種への交雑、自然破壊、特許による種子の支配など、食と農の未来にとって重大な問題をはらんでいます。実際の交雑の一例として、すでに菜種は除草剤耐性のあるものが全国に自生しています。『安心と安全・おいしさを求めて、あたりまえのことをありのままに』を目指す私たちにとって、相容れないものです。

民間企業や自治体が撤退するなか、プロジェクトとして大きな予算が割かれている独立行政法人、だけが遣伝子組み換え栽培実験を進めています。そこで、私たちは、遣伝子組み換え作物を栽培しない、GMOフリーゾーン宣言をしました。東北大の野外実験に対しては反対の署名運動に取り組んでおります。第一次署名6,500名分を3月22日に東北大に提出し、実験中止の申し入れを行いました。残念ながら今年度も実験を行うとの事でした。これからも粘り強く反対の意思表示をしていきたいと思っております。

最後に、今年の私の百姓仕事の目標です。我が家の自給率向上を目指す。特に燃料に関しては、菜種の廃油利用によりトラクターを稼働させることに挑戦したい。ゆとりをもって個人・自己中心に楽しい農業で美味しい作品を作る。農産物だけでなく他の生き物も観察しながら働く。

今年一年無理せずマイペースで……

菅原孝明

組合員 訪問

その4

佐藤 清喜 夫 さん
清喜 夫 さん

庄内協同ファームの前代表でもある佐藤清夫さん、喜美さん夫妻は、二十五、六年前からだだちや豆を栽培している。当時は宅配便などもなく、流通経路が限られていた上に、鮮度を保つ技術も低か

生活の糧となり得る

農業の姿をみせていきたい。

たことから、「どついたら、おいしいだだちや豆を消費者に味わってもらえるのか」と、試行錯誤を続けてきた。そうした経験から、自分が作った農産物がどのような状態で消費者に届いているのか、生産者が知ることの大切さを実感している。

今では人気の高いだだちや豆も三十年前は無名だった。当時は枝豆といえば、種苗メーカーなどが開発した白毛できれいな緑色のものが主流だった。一方のだだちや豆は在来種で鶴岡にしかなく、茶毛で見た目悪い。「こんなにおいしいのに、どつして市場では評価してくれないのか」と思い悩んだ。

だだちや豆を栽培している農家はたくさんいたが、地元での消費しか見込めなかったため栽培規模は多くて五畝。今の八十分の量しか作れなかった。どうやって市場での評価が高まるのか、全国に販売できるのかと考え、根付きで出荷したり、サヤを緑色のネットに入れてみたりと工夫したが、結局は駄目だった。

だだちや豆は鮮度が命で、収穫してから消費者に届くまでの時間が長いと、どんなにおいしい豆でも味が落ちてしまつ。当時の流通や農協を通じた販売という形態では、だ

だだちや豆のおいしさを全国に広げるのは無理だった。消費者の口に入るまでが生産者の責任だと、市場出荷という販売方法の見直しなどを農協に言い続けたが、農協は動けなかった。また、市場とは何なのか。市場に出荷するというのは生産者にとってどういう意味があるのかと、さまざま考えさせられた。

結局、自分は市場の言うとおりのものを作るだけの農業は出来なれないと思い、自分で消費者に直接販売していくことを選んだ。とはいえ、初めは売る力もなかつ

た。宅配便のシステムが整い鮮度を保つ包材が出来たことなど、物流環境がよくなつてようやく売れる量が増えてきた。

自分で売ることの意味は協同ファームでは設立当初から、消費者に生産者の名前が分かるようにして販売してきた。それは責任をもってこの商品をお届けするという意志表示。消費者の反応が直接自分に跳ね返ってくるため、厳しさも感じるが、消費者の声に添えていくことで、生産者として育てられていると思う。



好きで継いだ農業ではないと聞く。消極的な気持ちで家を継いだ。ちょうど農業の変わり目で、米を作っていたらよいという時代が終わりにあつた。農業は「おいしかつた」「作ってくれ

てありがとう」と思ってもらえることが大事なのに、どれだけ米を作っても喜ばれない。これは面白くなかつた。米ばかりを作っているときは、農業の楽しさを感じられなかつた。

しかし、だだちや豆が評価されて少しずつでも売れるようになって初めて農業は面白いと思つた。「おいしい」と言われて売れるというのは、達成感にも似た感

覚で、生産者冥利に尽きる。警沢な暮らしはできないが、今は農業はよい職業だと思える。

佐藤さんの住んでいる地区は急速に市街地化し、農地が減っている。農業を続ける環境は厳しくなつていく。以前は地区で七十畝あつた農地が四十畝を切つた。特に住宅が立ち並ぶ中で有機栽培は難しい。一昨年はだだちや豆の防虫のためにトウガラシエキスを散布したのだが、刺激臭がすると大騒ぎになつた。最近はその手の話題に事欠なくなつた。

これから取り組みたいことは後継者がいない、次世代をどうするか大きな課題だ。農業に夢を持って若い人が就農できるように、自分たちがもう少し頑張ることがあるのではないかと。雪が降る地域で作るからこそ付加価値の高くなるような作物はないか。そんな作目を探して、栽培することで生活の糧となり得る農業の姿をみせていきたい。

プロフィール
佐藤清夫(五五)、佐藤喜美(五〇)
鶴岡市平京田

家族 夫妻、両親の四人暮らし

経営規模 稲作三・五畝、減農薬無化学肥料栽培でわのもち、無農薬無化学肥料と転換中有機栽培の「シビカリ」、有機栽培だだちや豆四畝

趣味 サックス、若いころは早カルプロとして、さまざまな演奏会に出演。現在も鶴岡市内の飲食店で舞台上立つ。気負いのない自由人の夫を、妻が内助の功で支えているびつたりの夫妻です。

商
品
紹
介

枝豆ファンの皆様へ、
なかなか美味しいと評判の
「冷凍枝豆」



培った原料の冷凍枝豆です。一足早い夏の風味を、是非味わってみてください。

庄内地方は4月になって肌寒い今年の天候ですが、私達の生産者もいよいよ春の農作業が本格的になる時期です。庄内協同ファームでも今や全国的にも有名になって来た、夏のビールには欠かせない枝豆を栽培しております。天候に大きく左右される為、毎年このことではあります。栽培については苦労が多い作物です。化学農薬や化学肥料を使用しないで栽培した枝豆を朝に収穫しその日の内に冷凍し、出来るだけ生の鮮度を保つようになりました。

生の枝豆はまだ数ヶ月先の収穫になります。安心、安全にこだわって裁



Let's
クッキング

冷凍枝豆を利用して
『豆飯』に挑戦してみ!!

当地では赤飯(せきはん)に対して豆飯(まめはん)と呼びます

| | |
|-----|------------------------|
| 材料 | もち米.....4合 |
| | 枝豆.....200~300g |
| 5人分 | 酒.....大さじ5 |
| | 多いようですがふっくらつややかに仕上がります |
| 調味料 | みりん.....大さじ2 |
| | しょう油.....大さじ2 |
| | 砂糖.....大さじ2 |
| | 塩.....小さじ1 |

作り方

もち米は前の晩にといで、水に浸しておく
枝豆は戻して、さやから豆を出す
もち米をざるに上げ、蒸し器に入れて30分程蒸す
蒸しあがったもち米を一旦ボールにあげる
に調味料と枝豆を入れ、まんべんなくすばやく混ぜる
全体に調味料が行き渡った所で、もう一度蒸し器に戻し、再び蒸気が上まで回ったら火を止める
枝豆の色が落ちないように、各々の皿にとり分ける(蒸し器の中に長く入れておいたり、保温の状態時間が経つと、枝豆が色あせるので注意)

農を変えたい! 3月集会

農業がなくては健康な食生活などあり得ない。豊かな自然もありえない。農業がなくては健全な地域社会などあり得ない。地域の文化もあり得ない。

今改めて、日本農業を守るこの意味が切実に問われています。

3月24日、そんな思いを抱く人たちが約700名、東京の日本青年館に集まりました。庄内協同ファームからも5名参加、JAS有機への取り組みの経験や冬水田んぼ、生き物調査などこれからの農業への提案をしました。有機農業推進議員連盟の動きをバックアップし、日本農業の新しい展開のために今後も運動を展開します。

生産者集会 五十嵐 良一

庄内協同ファームでは、雪融けを待つ頃に生産者集会を開催します。

全生産者が集い、前年の作柄や実績を振り返り総括し、課

題を探り整理します。又、本年の栽培の計画や組織の方向、対応等も話しあわれ確認されます。組合員にとっても幾枚もの栽培に関する文書を提出し「今年も頑張るぞ」という気持ちで参加します。私達にとって総会(7月)に次ぐ大切な位置づけの集会です。



昨年は、2年続きの不作の中で「それでも有機農業」と題し、めげずに全うな農業をめざそうと話し合われました。その中で、協力組合員の拡大、冬期湛水田の1年を通じての生き物調査、稲の有機栽培の指針が提案され評価の出来る結果となりました。

今年は、「楽しい有機栽培」と題して、これまで確立された栽培技術等をより深め農業を通して、食べる物を通して、有機農業を楽しまなければ.....」と話し合われました。

様々な課題が山積みなのですが、もう忙しい農作業が始まりました。

苦しみ、楽しみはすべて忘れて.....

楽しい有機農業、一年間の課題です。

へんりれー 徒然草

舟越裕子



昨年9月より庄内協同ファームにお世話になっております。自宅は、農家ではないサラリーマン家庭で、入社当初は、見る物聞く事のほとんどが初めてのものばかりでした。

約1ヶ月半の間は組合員の皆様のお宅訪問と農作業のお手伝い、組合員の方々の考え方や、農業とはどんな物かということ、研修して参りました。お伺いしたのは、枝豆の出荷も終わりに近づいた頃です。枝豆の選別をお手伝いさせて頂きました。心の中で、「これもだめだな？もったいな〜!!」と何軒で叫んでいたでしょうか。が、顔には出さず、黙々と作業してきました。中でも背丈より高い雑草の中に枝豆の姿を目にした時は、思わず、おっ〜と声に出してしまいました。収穫が終わった畑でトラクターを運転してみましたが、初心者には難しい乗り物だと実感しました。また、羽黒山側の畑から望む庄内平野にはうっとりしてみたり。そんな風に、組合員の皆様にご迷惑をかけながら、とても楽しい研修をさせて頂きました。この場をお借

りして、御礼申し上げます。その節は大変お世話になりました。

色々な経験をさせて頂いたわけですが、正直、入社するまで安心安全な食べ物にはあまり関心はありませんでした。前述の通り私は農業から離れた環境の中で暮らして参りました。確かに家の裏には、よそのお宅の畑が広がっております。それをしげしげと見るわけでもなく、近所の農家のお母さん方からお裾分けされた物を何も考えず食べていたのです。農家の方は皆、「これ農薬かけでねがら安心してけ」の一言を添えて下さいました。入社して半年が過ぎたわけですが、この一言の重さが、やっと少しわかってきた気がします。それを理解するまで、半年ががかってしまいました。

安心安全な食べ物にわすかばかり関心を持ち始めた頃、機会がありある交流会におじゃま致しました。何もわからない未熟者が、テーブルごとの話し合いに参加させて頂きました。ずっと以前より安心安全な食べ物に関心を持ち、どのような農業経験をしてきたか、又、購入する側食べる側からの要望や気持ちや聞くことができ、自分の関心の薄さが恥ずかしく思えました。テ-

ブルトークのテーマは「食育」。各テーブルにいろいろな意見が発表されました。内容では「大人の食育」に最も関心が強いように感じました。内心、「まるで私だなあ」と痛感しました。今、地元小学校でも「安心安全な食べ物」や「生き物調査」など子供たちの学習に取り組みられています。皆様を通して色々な事により関心を持って私自身学ばなければと思いました。

5月には田植えも始まりです。私も稲と一緒に成長したいと思えます。皆様ご指導下さいますようしくお願致します。

農業ニ知識

水稻の有機栽培

水稻の有機栽培で一番問題になるのは除草対策で色々な方法が試されています。現実的な方法としては、手取り除草、除草機、鴨放飼、鯉放飼、米ぬか散布、紙(布)マルチ、冬期湛水があります。それぞれ長短はありますが、除草機、鴨放飼、紙マルチ、冬期湛水などが当地で安定し、また栽培面積もある程度こなせる方法です。特に鴨放飼は除草効果だけでなく害虫も食べてくれるし、景観的にも水田と良くマッチし、心の癒しにもなります。

栽培者、それぞれ課題を持ち試行錯誤して作物を育てる、そんな面が多いのも、有機栽培の特徴です。

あしがき

春、農作業本番

冬季間、雪に覆われる当地方では農繁期と農閑期がわりとはっきりしています。私たち法人の組合員は畜産、施設園芸、農産物加工などを取り入れ年中自分の家で働く人、冬場庄内協同ファームもち加工等で働く人など様々です。

雪解けとともに田んぼや畑の仕事が始まります。ほとんどの農家が米を栽培していて、桜が咲き始める頃種まき、そして本田の耕耘、代かき、田植え作業と息の抜く間もありません。

毎年課題を設け、チャレンジ愛情を込めて、栽培

そして、豊作でありますよう、祈り秋には収穫に感謝。

(西)